HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	『実学報』における注釈付き日本漢字語の受容
Author(s)	陳, 静静
Citation	研究論集, 18, 35（左）-48（左）
Issue Date	2018-12-26
DOI	https://doi.org/10.14943/rjgsl.18.l35
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/72434
Type	departmental bulletin paper
File Information	18_003_chen.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

10.14943/rjgsl.18.l 35

『実学報』における注釈付き日本漢字語の受容

陳　　静　静

要　旨

近代中国の定期刊行物に関して，中日同形語の観点から多くの研究がなされている。『実学報』に関して，秦（2010）は 812 語と大量の日本漢字語の使用を確認している。しかし，新語に対する翻訳者の理解度には触れていない。翻訳者の理解度が日本漢字語の受容を反映しているため，日本語の漢字表記を理解せずに写すことはその語を受け容れたとは言えない。本稿は，注釈付き語を中心に，翻訳者における日本漢字語の受容情況を分析する。

1．はじめに

近代中国の外交官や民間文化人の著作に新語を使用する際，読者に分かるように注釈を付けて紹介した。それらの著作に現れた漢字語の注釈に目を配った研究としては沈（1994）が早い。それらの注釈内容を見ると，中国語での言い方や，著者による新語の受容情況などが見て取れる。『実学報』（1897.8-1898.1）の訳文にも注釈が付されていることは先行研究で分かるが，注釈付き語の分量や，中国語に借用された語との関係，翻訳者の新語に対する理解度に関する研究は殆んど行われていない。本稿では，注釈付き語を中心に日本漢字語の受容情況を考察したい。

2．先行研究と考察対象

『実学報』の日本漢字語に関して，秦（2010）は，調査対象語 2968 語を取り上げ，812 語の日本漢字語が『実学報』に使用されたと論じている。一般語が 298 語，専門語が 515 語と専門語が圧倒的に多い。さらに，『分類語彙表』に基づいて分類し，近代概念を表す語が主に借用されていることを明らかにした。ただし，筆者が『漢語外来詞詞典』(1984)，『漢語大詞典』(1986-94)，『近現代漢語新詞詞源詞典』（2001），『近現代辞源』（2010）で 812 語を調べた結果，用例にいず

れも『実学報』を挙げていない。実際には，『実学報』が言語資料として十分に重要視されていないのが現状である。

注釈付き語に関して，沈（1994）は中国外交官の視察報告書，日記などで使用された日本漢字語に注釈が付されていることを提示した。李（2006）は，梁啓超の『飲氷室合集』にある日本漢字語の出現箇所を「A 割注及びその関連部分にある語，B 注・附言・案にある語，C 本行にある語，D その他」の 4 種類に分けている。さらに，「日本謂」「日本或訳」「日本号」などの特徴的な表現，英語などの原語が付いている語と付いていない語に分けて，日本からの借用語であるか詳しく検討した。そして，『漢語大詞典』に挙げられている梁啓超の使用例を考察し，梁啓超の努力によって近代中国に移入された日本語借用語を 141 語と確定した。

これを受けて，秦（2010）は『実学報』もこのやり方を取っていると指摘し，注釈を付けることは当時において一般的なやり方であり，多くの翻訳書や留学生によって書かれた文章に見られ，日本語彙の中国語における普及及び定着に大きな役割を果したと論じるが，詳しくは分析していない。

本稿では，まず先行研究の成果を再検証し，『実学報』「東報輯訳」「東報訳補」（以下「東文報訳」と略す）における日本漢字語の位置付けを提示する。そして，注釈付きの語を中心に，翻訳者の日本漢字語に対する認識を検討して，日本漢字語を中国に紹介した『実学報』「東文報訳」の役割を明らかにする。

なお，「日本漢字語」の定義について，秦（2010）に従う。氏は中日同形語の観点から「中国または日本において創造された漢字表記語（漢字語）の中で，西洋文明と接触する際，新事物・新概念を表わす意味・用法が日本語に出自を持っているものを日本漢字語と称する」と述べている。本稿では，この秦（2010）の定義に則って，「沖縄」「諏訪」のようなものを漢字表記語とし，「会社」「警察」のようなものを日本漢字語と称する。

3．清末中国人の日本視察記録の語彙との対照

中国に先立って，日本は岩倉使節団が 1871 年から 1873 年の間に米欧 12 ヶ国を歴訪し，視察の報告書として『特命全権大使　米欧回覧実記』を著した。近代化を目指す中国も使節団を派遣し，日本を始め欧米社会を視察し，視察報告書を残した。それに加えて，日本に駐在する中国人，私的身分で訪日した文化人の著書にも日本社会や日本語に関する記録が数多く存する。本節で沈（1994），李（2006）の調査データを利用して，『実学報』の 812 語をその前後の中国人著作で使用された新語（新概念を表わす語），日本語借用語と対照し，『実学報』の日本漢字語の位置づけを見よう。

3.1　何如璋が使用した語

1871 年 9 月に『中日修好條規』が締結され，1875 年 11 月，日本特命全権公使森有礼の来華を受け，1877 年 11 月，何如璋が初代の駐日公使として赴任する運びとなった。何如璋は日本で目にしたものを毎日記し，時に詩も作った。それが『使東述略并雑詠』（1877）である。『述略』の部は 1 万 4 千余字で，『雑詠』の部は漢詩（七言絶句）67 編で構成されている。『実学報』より先に下記 7 語が『使東述略并雑詠』で使用された。

公園，市場，師範学校，少佐，神社，電信，郵便

3.2　黄遵憲が使用した語

初代駐日公使何如璋の参事官，黄遵憲は 1877 年から 1882 年の間滞日して，明治初期の日本を詳しく考察し，『日本国志』（40 巻），『日本雑事詩』（初版本 154 編，定本 200 編）を著した。『日本国志』（1895）は歴史上本格的な日本研究書であり，中日言語交流における重要な資料として研究が多くある。『実学報』より先に下記 35 語が『日本雑事詩』（1890）定本で使用された。「士官学校」以下，複合語の語形に差異があるもの 8 語も合せて示す。

移民，会社，学科，幹事，汽船，議員，議院，議長，共和党，金額，金属，銀行
刑法，警部，権限，建築，公園，国旗，市場，師範学校，紙幣，自由，自由党，社会
主義，巡査，証券，進歩，製造所，統計，内閣，博物館，民権，予算，麦酒[1]
士官学校，政治学，造幣場，総理，裁判所，紡績所，予備，郵便局 ──『日本雑事詩』
士官，政治家，造幣局，総理大臣，裁判，紡績業，予備軍，郵便 ──『実学報』

3.3　傅雲龍が使用した語

傅雲龍は，政府が派遣した外国視察団の一員として，1887 年から 1889 年にかけて日本を始めアメリカ，カナダ，ペルー，キューバ，ブラジル各国を歴訪した。調査，視察の報告書『遊歴各国図經』（86 巻）と旅行の見聞，感想などを記録した『遊歴各国図經並余記』（15 巻）を著した。そのうち，日本に関しては，『遊歴日本図經』（30 巻）と『遊歴日本図經余記』（3 巻）がある。『実学報』より先に下記 23 語が『遊歴日本図經余記』で使用された。複合語の語形に差異のあるもの 1 語も合せて示す。

学科，幹事，技師，議員，教授，銀行，警察署，憲兵，公園，工兵，商業，少佐

---

[1] 下線の中日同形語は『実学報』ソース記事と訳文に現れているが，秦（2010）は日本漢字語と認定していない。梁啓超の初出とされた語は四角に括って示す。

図書館，精米所，総長，大尉，統計，内閣，美術，美術品，郵船，郵便，噸
総理 ──『遊歴各国図經並余記』
総理大臣 ──『実学報』

3.4　葉慶頤が使用した語

1897 年に『集成報』東文翻訳を勤めた葉慶頤は，1880 年半ばまで私的身分で日本に 2 年間滞在した[2]。日本での見聞録は『策鰲雑摭』（1889）の中に，「事物異名」という巻があり，130 語の日本語を収録し，詳細な解釈も施されている。『実学報』より先に下記 2 語が『策鰲雑摭』で使用された。複合語の語形に差異のあるもの 1 語も合せて示す。

硝子，支配人
時計師 ──『策鰲雑摭』
時計 ──『実学報』

3.5　黄慶澄が使用した語

黄慶澄は私的身分で訪日した文化人の一人で，1894 年に『東遊日記』を著した。その中から新語，訳語を多く検出できる。『実学報』より先に，下記 5 語が『東遊日記』で使用された。複合語の語形に差異のあるもの 5 語も合せて示す。

銀行，警察署，内閣，電報，法律
総理，博物会，裁判所，予備兵，郵便局 ──『東遊日記』
総理大臣，博物，裁判，予備軍，郵便 ──『実学報』

3.6　梁啓超が使用した語

李（2006）の 141 語と対照した結果，**表 1** の 25 語が『実学報』で先に使用された。このほか，梁啓超がもたらした日本語借用語には「交通機関」（1903），「博物」（1896），「国会議事堂」（1903），「立法院」（1902）がそれ以前の『実学報』訳文で「交通之機関」「博物館」「国会」「立法」の形で載っている。

25 語のうち，「教育」1 語のみが梁啓超より遅く，残り 24 語は『実学報』「東文報訳」が先である。日本の新聞記事の翻訳という性質を持っているが，『実学報』での使用が梁啓超の自主使用より早く現れ，語の初出候補としてよかろう。

---

[2] 沈（1994：93）による。王（2013：40-42）によると，葉氏は 1881 年から 1882 年の間日本に滞在した。

表 1　梁啓超の著作と『実学報』に共通して載っている語（25 語）

借用語	梁の使用年	借用語	梁の使用年	借用語	梁の使用年
科学	1910	経済	1902	内閣	1911
改革	1902	原料	1899	発見	1902
革新	1904	交通	1902	発明	1902
革命	1902	国家	1902	半島	1902
機関	1905	雑誌	1901	美術	1901
議院	1899	時間	1902	迷信	1902
議長	1902	社会	1902	予算	1899
恐慌	1909	大統領	1911		
教育	1896	帝国	1902		

以上のように，梁啓超の使用より先に 24 語が『実学報』において用いられた。なお，24 語のうち，『実学報』より前に，「内閣，美術」が傅雲龍の『遊歴各国図經並余記』，「内閣」が黄慶澄の『東遊日記』，「議院，議長，社会，内閣，予算」が黄遵憲の『日本雑事詩』にあった。つまり，「議院，議長，社会，内閣，美術，予算」の 6 語はそれ以前に清末の外交官，文化人の著書で使用された。また，「支配人，電報，噸，法律，麦酒」の 5 語は『実学報』に現れたが，秦（2010）は日本漢字語としなかった。それに，「銀行」は秦（2010）で日本漢字語とされ，『漢語外来詞詞典』でも日本語借用語とされるが，日本より先にロブシャイド『英華字典』で Bank の訳語として挙げられている（沈 2008：151–154）。さらに，「銀行」の成立及び日本への伝来ルートも明らかに検討されている（朱 2009：145–161）。したがって，『実学報』「東文報訳」の日本漢字語への研究は量的にも，質的にも研究する余地があると考えられる。つづいて，注釈付き語を中心に『実学報』における日本漢字語の受容を考察しよう。

4．注釈付き日本漢字語の種類及び語数

4.1 『実学報』以前の日本漢字語の注釈

清末の外交官，文化人の著書，及び新聞『実学報』に新語の使用が見られるが，当時の中国人が日本漢字語を正確に理解しているかについては，新語の解釈からその一端が伺える。上掲の著書に現れた新語の注釈例を見よう。

美術　言術美也 ── 傅雲龍
　　（「美術」とは，術が美しいことである。）
市場　互市之場 ── 何如璋
　　（お互いに売買する場所。）

支配人　…謂支派分配之人　猶中国之称掌櫃也 ── 葉慶頤
（仕事などを指示したり割り当てる人のことを言い，中国で「掌櫃」と呼んでいるような人である。）

硝子　玻璃之名　日人有硝子製造会社　即造玻璃器物處也 ── 葉慶頤
（ガラスの呼称。日本人は硝子製造会社を持っていて，すなわちガラス製品を造る處である。）

「美術」「市場」「支配人」の解釈を見ると，当時の中国人は，伝統的教養を生かし，中国語の表現習慣によって語句を分割して解釈する傾向がある。語構成から見ると，「美術」を「形容詞＋名詞」，「市場」を「動詞＋名詞」，「支配人」を「動詞＋名詞」に捉え，語全体も全て名詞に取られている。また，「硝子」は外来語のガラスの意味を喚起するために当てた漢字表記であり，古典中国語の借用である。中国では glass の訳語として早くから「玻璃」を使用していた[3]。葉氏の解釈では「支配人」「硝子」の中国語の言い方を提示したほか，日本での経験を生かして，「硝子製造会社」を説明し，関連知識も紹介した。

しかし，「術が美しい」と主述関係の解釈をして，「美の視覚的表現をめざす芸術」という近代的な意味で理解していたとは言い難い。また，「支配人」の解釈で「掌櫃」という中国語の言い方を当てたが，「掌櫃」にはオーナーとマネージャーの両方の意味があるが，「支配人」にはオーナーの意味がない。

要するに，近代前期の中国人達は，伝統的教養を活かして未知の日本漢字語を既存の語や表現と関連付けながら，新語の意味を解釈しようとした。その過程において，日本滞在の経験も語の解釈に大きな役割を果たした。ただし，正しく解釈できた語もあれば，スムーズにできなかった語もある。それらの注釈の正誤によって日本漢字語の受容情況が窺える。

4.2 『実学報』の注釈付き語

注釈付き語は日本からの借用語の可能性が高いが，一つ一つ具体的に考察する必要がある。『実学報』訳文では，小文字で意味を説明したり，中国語の言い方を付けたりして注釈した[4]。『実学報』訳文に付された注釈は次の 3 種類に分けられる。

---

[3] モリソン『華英字典』Part Ⅲ（1822：188）「glass：玻璃」。

[4] 次のような小文字例は考察から外す。①日本語原文通りの小文字の写し，「船主平原多吉（年四十四歳）及大野治吉（年四十四歳）…」②語の注釈でないもの，「現考臺南木料價值．每株須售銀六圓三角．鋸就木料．自十四五圓至二十五六元不等．（此蓋指一方丈而言以上價值當均為極貴重之木料．）」なお，訳文で 2 行に亘っている小文字注を 1 行に直し，括弧の中に入れておく。

（一）本行日本語＋小字注中国語

例：因視察倉庫（猶中國言棧房.）
自松永大尉十六名乘組.（乘組猶華言執事）向北海道開行.
如軍隊及警察（中國謂之巡捕）之類.
惟九州筋參考會社（即公司）之分店以外.

例のように，新語が出る際，本行で日本語漢字表記をそのまま取り入れて，下に小文字で中国語の慣用的な言い方を付けたり，例示したりして説明するタイプである。この解釈形式は，葉慶頤の「支配人：猶中国之称掌櫃也」と類似している。「猶中国言～，猶華言～，日本称～為～，中国謂之～，訳言～，即～」などはその特徴である。この類の語は次の延べ語数 20 語，異なり語数 19 語である。

椅子（猶言位也），	沖縄（即琉球），	会社（即公司）
外相（猶外部），	曲馬場（蓋即馬戲），	首傾（猶首肯也）
軍相（如兵部尚書），	警察（中國謂之巡捕），	交通之機関（如電線德律風之類）
虎疫（即虎拉病），	政海（猶言宦海），	倉庫（猶中國言棧房）
橐駝師（種樹人．蓋用柳子厚郭橐駝之名也），		兎角（猶言角逐）
度相（如戶部尚書），	日曜日（猶言禮拜日），	乘組（譯言執事人／乘組猶華言執事）
半季（日本稱半年為半季），		方針（謂指南針）

（二）本行中国語＋小字注日本語

例：澳大利亞（日文作濠太剌利）三十四萬噸.
遣警察署之包探（日本名諏訪）十名．巡查應援.

例のように，本行で中国語翻訳をし，小文字で日本語漢字語を付けて，その語の日本語の名称を紹介する方法である。「日本謂之～，日文作～，日本名～」などはその特徴である。この類の語は次の 7 語である。

澳大利亞（日文作濠太剌利），	經理帳目人（日本謂之支配人）
總理人（日本謂之事業擔當人），	包探（日本名諏訪）
憑票取銀者（日本謂之割引手形），	約期匯付者（日本謂之定期貸）
現期交付者（日本謂之当座貸越）	

（三）その他

例：蓋因本年上半季.（即上半年.）比上年上半季物價騰貴。各種生意。成本較鉅。必須增加。乃能有濟耳。

例のように，ソース記事の内容を翻訳した後，翻訳者や編集者が付け加えた附言が大文字で書かれ，すでに詳しく注釈した新語「半季」を使用する際，もう一回中国語の言い方を付け加えた例である。

なお，注釈付き語を翻訳者別で見ると，程起鵬による注釈が 1 語，「王宗海口訳，王仁俊筆述」による注釈が 1 語，「王宗海口訳，孫福保筆述」による注釈が 6 語，残り 20 語はすべて孫福保による。筆述の注釈 6 語も含めて見ると，注釈のほとんどが孫福保によって付され，孫氏の新語を慎重に取り扱う態度が見て取れるだろう。

程起鵬 ── 乘組（乘組猶華言執事）
王宗海口訳，王仁俊筆述 ── 乘組（譯言執事人）
王宗海口訳，孫福保筆述 ── 憑票取銀者（日本謂之割引手形），方針（謂指南針）
約期匯付者（日本謂之定期貸），半季（日本稱半年為半季）
現期交付者（日本謂之当座貸越），上半季（即上半年.）

上記 3 種類の注釈付き語をまとめて見ると，延べ語数 28 語，異なり語数 26 語（句）である。全 139 本の訳文に対して，5 本に 1 語の割合で，多くの注釈が施された。それらの注釈を残した役割を果たしたのは主に翻訳者の孫福保であった。

一方，秦（2010）の日本漢字語 812 語と対照すると，「会社」「警察」「交通」「機関」「日曜日」「方針」の 6 語のみ注釈が付されている。前節で検討したのうに，『実学報』の日本漢字語は量的にも，質的にも研究する余地があるため，次節では範囲を広めて注釈付き語全体の翻訳情況を考察する。

5．注釈付き語の翻訳

『実学報』の翻訳者は，それらの語について本当に理解していたのか。そして，それらの語の翻訳は妥当であるか，日本漢字語とそれ以外の語に分けて，正誤両方の例を挙げながら見てみよう。

5.1　注釈付き日本漢字語の翻訳

（1）紀美國日曜日（猶言禮拜日.）之光景．與其游觀之樂．閱其文字．儼如置身彼國．而

與其休假日之意味一般焉．蓋當地之日曜日．反比平日有繁忙複雑之象.

（『実学報』「美国日曜日之光景遊楽」）

「墨国の日曜と名勝」日曜日てふ文字は一般に休日を意味すれども当地の日曜日は反つて平日に比して繁忙複雑の現象を現はすなり

（『時事新報』「墨国の日曜と名勝」）

日本語の「日曜日」に対して，漢字表記をそのまま写したうえ，小文字で中国語の言い方を添えた。モリソン『華英字典』Part Ⅲ（1822）には「Week of seven days is called in Canton 一個禮拜，七日節，Weekly 每禮拜，Monday 禮拜一，Tuesday 禮拜二日，Friday 禮拜五日，Saturday 禮拜六日，Sunday 主日」と「禮拜」が既に登場したため，「曜日」に比べると，「禮拜」のほうが中国語として，親しみある言葉であるためと考えられる。

（2）室內增設交通之機關.（如電線德律風之類.）人民之便利益盛矣.

（『実学報』「伯林日記」）

市内の交通機関を増設して人民の便利を盛にせり，

（『東京日日新聞』「伯林日記」）

原文と対照した結果，「交通之機関」は「交通機関」という 4 字熟語の対訳語である。日本語では，「交通」「機関」それぞれあるが，組み合せて運輸機関と通信機関の総称になる。「交通機関」を翻訳するには，まずそれを分割して「交通之機関」にして，小文字注で「電線德律風之類（電線，電話の類）」などと具体例を挙げて類推する方法が取られた。そこから，翻訳者が「交通機関」という 4 文字漢語を柔軟な方法で翻訳し，語義も正確に受け止めたと考えられる。

『実学報』における長い日本漢字語の受け入れ方として，中国語では，「停車之場」「根拠之地」「外交之官」「製塩之場」など 3 字熟語の翻訳に見られるように，「之」で区切って「～之～」と句の形に翻訳する方法がも活用されている。

（3）且伯嘗有言矣．謂同是指定方向．或有積極的方針.（謂指南針.）或有消極的方針.

故其議論雖有千差萬別．然孰能求其不足之故．而深得救其不足之法乎.

（『実学報』「松方伯之時務談」）

且つ伯は「或は積極的方針と云ひ或は消極的方針と云ふ其議論は千差万別なれども今日の財政は孰れにても不足は乃ち不足なり」と云へり

（『東京日日新聞』「松方伯の時務談　上」）

「方針」は古代中国語にあり，「方向を示す磁石の針」という意味である。注釈の「指南針」

（羅針盤）はそれと同じ意味になる。前後の文脈と合せて見ると松方伯の発言では近代的意味の「目指す方向。物事や計画を実行する上の，およその方向」となり，翻訳者は近代的意味を理解せず，「指南針」を当てた。その前に「謂同是指定方向」（同じく方向を指すものと言う）という説明を付け加えても抽象的概念を翻訳・説明するものとしてやや不足な感じがする。

上記の例の注釈から見ると，「日曜日」「交通機関」は，翻訳者がその訳語・新概念語の意味を正確に理解でき，正しい中国語で言い替えを注釈に付け加えた。そのほか，「会社」「警察」も正確に翻訳できた。一方，「方針」については，翻訳者が漢文知識を生かして解釈しようとしたが，新しい意義が賦与されたものに対しては限界があった。

5.2　他の注釈付き語の翻訳

（4）河野精米所．其社中經理帳目人（日本謂之支配人.）黒田忠一．及總理人（日本謂之事業擔當人.）河野孝之助．兩氏之宅．被細民二千餘名．亂入家屋．

（『実学報』「飯田町人夫二千名之大暴動」）

河野精米所及び同社支配人黒田忠一事業担当人河野幸之助両氏の宅へ細民二千余名乱入し

（『時事新報』「人夫二千名の大暴動」）

「支配人[5]」「事業担当人」の訳語として「経理帳目人」（経理，会計士）「総理人」（マネージャー）が当てられた。葉慶頤が「支配人：謂支派分配之人　猶中国之称掌櫃也」と解釈したが，『実学報』の翻訳者はその一面を強調して，帳簿を経理する人と解釈している。意味のずれが多少あるものの，概ねその概念は伝わると考えられる。当時の中国語はまだ 2 文字熟語が多かったが，「経理帳目人」「総理人」と多文字の訳語を当てることは注目すべきである。語構成から見ると，「経理帳目＋人」が「V＋N」，「総理＋人」が「V＋N」で，「～をする人」を表わす。この「経理」「総理」は動詞としての働きを担っている。

（5）或書其在邸中出入時．有一橐駝師．（種樹人．蓋用柳子厚郭橐駝之名也.）在庭之片隅．手持松樹．如而居於此．

（『実学報』「霊感公擯斥松樹事」）

或るとき同邸に出入する橐駝師御庭の片隅にて榎樹の手入れを為し居けるに，

（『東京日日新聞』「霊感公作為の松を擯斥す」）

---

[5] 沈（1994）では新漢語と認定した。なお，「支配」が『漢語外来詞詞典』（1984）で日本語借用語とされる。

「橐駝師」は『漢語大詞典』に収録されていないが，「橐駝」（駱駝）がある。唐の柳宗元[6]の「種樹郭橐駝伝」に，木を植えるのがうまい郭という背骨の曲がった人が描かれている話があるが，それから「橐駝」が転じて，樹の栽培に腕がある人を意味するようになる。日本語の「橐駝師」はそれに接尾語「師」を付けてできた複合語であり，「植木屋」のことを表す。翻訳者は中国語の教養を働かせて，「橐駝師」の語源を推測し，「種樹人」と翻訳することができた。

（6）澳大利亞（日文作濠太剌利）三十四萬噸．阿非利加三十萬噸．西班牙二萬噸．
（『実学報』「世界之砂糖產出及消費數」）
濠太剌利三十四万噸，阿非利加三十万噸，西班牙二万噸，
（『東京日日新聞』「世界の砂糖産出及消費高」）

外来語の漢字表記として，日本と中国でも音訳語がそれぞれ当てられた。中国人にとっては，「濠太剌利」より「澳大利亜」が英語原語の発音に近い。翻訳者には両国における「オーストラリア」の当て字の違いを意識しながら，慣習的な中国語の名前を大文字で書いて，小文字で日本の漢字表記も付けたのであろう。

次ぎに，やや複雑な例を見よう。

（7）遣警察署之包探（日本名諏訪）十名．巡查應援．
（『実学報』「飯田町人夫二千名之大暴動」）
諏訪警察署よりも十名の巡査応援として派出したるよし
（『時事新報』「人夫二千名の大暴動」）

まず，例文の日本語を現代語に直すと，「諏訪警察署よりも十名の巡査を応援として派遣したのだ」という意味になる。「諏訪」が警察署の前にあり，その警察署の名前を表わす。しかし，訳文では「包探」の後ろに置かれ，その日本語の言い方が「諏訪」であることを示す。古典中国語には「諏訪」の語形が『新唐書』にあり，「諮詢，意見を求める」という意味である。故に，翻訳者は漢字表記語である「諏訪」を地名として理解できず，日本漢字語と判断して伝統的教養を生かして中国語の「包探」を当てた可能性が高い。

一方，「包探」[7]は「中国の租界に置かれたスパイや探偵のこと」を意味し，「巡査」の訳語と

---

6 柳宗元（773-819），唐の文学家，哲学家であり，字は子厚である。代表作に『種樹郭橐駝伝』がある。

7 「又稱包打聽。舊時帝國主義在中國租界里設置的密探。亦泛指偵探。」『漢語大詞典』（1986-94：2-184）。

しても通じるようである。日本語では，「巡査」が警察官の階級の一つで，巡査の名称が最初に用いられたのは，1872 年（明治 5 ）の警保寮職制（太政官布告）においてである[8]。古い中国語に語形があり，日本語において近代の独特な意味と名詞の用法が付された「転用語」である。

また，『実学報』の訳文「警察署の包探十名を巡査応援させた」の中で，翻訳者は「巡査」を「廻り調べる」意味の動詞として使用し，「応援」と並列して文の述語にしている。秦（2010）では中日同形語の観点から「巡査」を日本漢字語としたが，この訳文では「巡査応援」を「名詞＋動詞」とは判定しがたい。

次ぎに，近代的意義が付されていない言葉の例を見よう。

（8）於是拓相以其椅子（猶言位也.）與內閣之事務局動相掣肘兎角（猶言角逐.）勢力．相與競爭．當時戰爭之後．士民洶洶．迄未安堵.

（『実学報』「台湾総督」）

高島子拓相の椅子を占めしが事務局の掣肘よりして兎角勢力の競争となり戦後匆々土民未だ其堵に安ぜざるに当て中央台地共に意外の紛擾を極めた

（『大阪朝日新聞』「台湾総督」）

「兎角」は「とかく」の当て字として，名詞，副詞の用法がある。仏教用語「兎角亀毛」に由来する。日本語原文では，「複雑な事態そのものをさす。種々様々の事。また，そこに含まれる一つの具体的な事柄を暗示することもある」という意味を持つ名詞である。一方，中国語では「亀毛兎角，兎角亀毛」の形を保っていて，『漢語大詞典』ではそのまま 4 字熟語の見出しで収録されている。類義語「兎角牛翼」もある。「実在するはずのないことのたとえ」である。「兎角」と対応する中国語として動詞の「角逐」を当てたが，名詞として使用された「兎角」を正しく理解できなかった誤訳の例と言える。

（9）公為之首傾.（猶首肯也.）問其松在何處山中生育．乃尋得此.

（『実学報』「霊感公擯斥松樹事」）

公は首を傾げ，其松は何処の山中に生育ちたる者なるやと尋ねられ，

（『東京日日新聞』「霊感公作為の松を擯斥す」）

「首を傾げる」という句の訳語として，漢字表記だけを残して「首傾」になったが，中日両方ともこの語は存しない。「首を傾げる」は「疑問・不審のある様子をする」意味で，後の文「そ

[8] 『日本大百科全書』ジャパンナレッジサイトより。なお，1869 年頃巡査（オマワリ）の用例もある。

の松はどこの山中に生育するものかと尋ねられ」と繋がっている。注釈の「首肯」（頷く，承諾，承認する意味）はその連語の意味とかけ離れているようである。

上記の例をまとめると，まず，多文字漢語「支配人」「事業担当人」に対して，翻訳者が多文字の訳語「経理帳目人」「総理人」を当てたのは，３文字やそれ以上の漢語の受容であると考えられる。そして，中国人の伝統的教養にもとづいて「橐駝師」の語源を推測し，外来語「オーストラリア」の当て字の違いを意識しながら日本語の呼称を紹介できた。一方，近代的意義が付された「巡査」に対して，翻訳者には受け止めず，伝統知識を生かして翻訳を施した。また，日本独自の表現に対して，翻訳者は漢字表記をそのまま継承したが，注釈から見ると，漢字表記語「諏訪」を日本漢字語と勘違いし，「兎角」「首を傾げる」への理解が間違っていることが分かる。

6．まとめ

本稿では，『実学報』前後の著書に現れた新語と対照し，『実学報』で使用された日本漢字語は量的にも，質的にも検討の余地があることが分かった。

そして，注釈付き語を中心に『実学報』における日本漢字語の紹介方法を，（一）本行日本語＋小字注中国語，（二）本行中国語＋小字注日本語，（三）その他（附言に注釈を付ける方法）にまとめて，それらの語の翻訳を合せて日本漢字語の受容情況を考察した。以下に注釈付き語の分析に関する詳細を挙げる。

①注釈付き語が全部で 28 語（句）あり，５本に１語の割合で，漢語を中心に多く施されている。翻訳者は（一）「本行日本語＋小字注中国語」の注釈形式を多用し，小字注に中国語の呼称を提示したりした。翻訳者別で見るとその殆んどが孫福保による注釈であり，孫氏が緻密に翻訳を行った態度が見られる。

②注釈付き語のうち，「会社」「警察」「交通」「機関」「支配人」「巡査」「日曜日」「方針」の８語の日本漢字語が注釈に関係している。ただし，「交通機関」が１語であり，「巡査」「方針」が漢字表記の写しのみあって，近代的意義に解釈されていない。

③翻訳者が伝統的教養を生かして日本漢字語を解釈しようとする傾向がある。典拠を挙げたり（「橐駝師」），具体例で類推したり（「交通機関」）するが，日本独自の表現（「兎角」「首を傾げる」）に対しては限界があり，漢字表記語を日本漢字語と間違えて判断した（「諏訪」）こともある。

④「経理帳目人」「総理人」のような多文字漢語の使用も見られるが，３文字やそれ以上の長い日本漢字語に対して，多くの場合翻訳者は分割して「～之～」の形にする方法を活用で

きた。

要するに，『実学報』は，孫福保のような翻訳者の努力によって訳文に多くの注釈を残してきた。それらの注釈から当時中国人による日本漢字語の受容情況が見て取れる。「巡査」「方針」のような漢字表記の写しは日本漢字語の借用とは言えないため，中日同形語の観点のほか，注釈などによって翻訳の正確性という観点も日本語借用語研究の一助となれる。

（ちん　せいせい・言語文学専攻）

参考文献

王　宝平（2013）「清期赴日民間文人葉慶頤考」『浙江外国語学院学報』2013-1　pp.40-48
黄　河清（2010）『近現代辞源』上海辞書出版社
朱　　鳳（2009）『モリソン「華英・英華字典」と東西文化交流』白帝社
沈　国威（1994）『近代日中語彙交流史 ── 新漢語の生成と受容』笠間書院
沈　国威（2008）『近代日中語彙交流史 ── 新漢語の生成と受容（改訂新版）』笠間書院
秦　春芳（2010）「近代中国語における日本漢字語借用に関する研究：定期刊行物の翻訳記事を中心に」広島大学博士論文
羅　竹風ほか編（1986-94）『漢語大詞典』上海辞書出版社
李　運博（2006）『中日近代詞彙的交流 ── 梁啓超的作用与影響』南開大学出版社
劉　正埮ほか編（1984）『漢語外来詞詞典』上海辞書出版社
ROBERT MORRISON（1822）『華英辞書集成⑥　A DICTIONARY OF THE CHINESE LANGUAGE PART Ⅲ』（複製本）　ゆまに書房　1996

付記　本論文は中国国家留学基金管理委員会の支援による研究成果の一部である。